

# ふるさと歴史散歩

〔第155回〕 長福寺(禅宗・曹洞宗)その二(改訂版)



平安時代初期から鎌倉時代にかけて安芸国一帯に普及した主な仏教は真言宗であった。高野山領可部荘内の福王寺や厳島神社境内にある大聖院などが2大名刹である。中世になると各地に台頭してきた武士階級が、一族の祈願寺や菩提寺として手厚く保護した。福王寺は銀山城主の武田氏、蓮華寺(安芸区中野)は阿曾沼氏、国人領主時代の毛利氏も満願寺(吉田の郡山)と、それぞれ武人棟梁の菩提寺として栄えた。近世に広島藩主となった福島正則は祈禱所として不動院(真言宗)を起こしたほどであった。

て仏の心印を悟ることを目的とする宗派である。大きく目を開き黒き口髭、顎鬚の、ダルマさんとして知られており、京都の南禅寺に残る達磨図が有名である。我が国に禅宗を伝えたのは、白雉4(653)年に入唐した道昭である。道昭は西遊記の主人公三蔵法師として有名な玄奘に大変可愛がられ同房に住まわせて教えたという。道昭は、先ず玄奘から法相宗を学び、次いで慧満に師事して禅宗を学び日本に持ち帰った。帰国後、元興寺の東南隅に禅院を建てて住み終生座禅の修行をした。

鎌倉時代の禅宗は、幕府が保護したため武士階級間に大いに広まり、室町・戦国時代には芸備の各地において大名・豪族など武人棟梁の庇護により禅宗寺院が建立された。さらに室町時代には茶の湯が流行し、禅と結びついて独特な美意識の武家文化を作り上げた。安芸国では、府中の白井氏が長福寺を菩提寺とし、広島草津には羽仁氏の海蔵寺、備後国では小早川氏が三原市高坂町に仏通寺を建てた。禅宗は曹洞宗・臨済宗・黄檗宗の3派に分かれている。臨済宗は栄西が伝え京都に建仁寺を建立し、曹洞宗は道元が伝え越前(福井県)に永平寺を建てて本山とし、隠元は山城(京都府)に黄檗山万福寺を開いた。



長福寺にある修善塔(藩主浅野宗恒公が仏像を安置したと伝わる石塔)

府中町文化財保護審議会会長 横田 禎昭

## 消費生活相談

インターネット予約した旅行のトラブル

### 相談内容



国内のホテルを予約しようとスマホでインターネット上の旅行サイトから申込み、クレジットカードで決済した。予定が変わったので次の日にキャンセルの電話を入れたら20%のキャンセル料を請求された。キャンセル料について書いてある部分は見づらく確認していなかった。旅行は3か月後なのにキャンセル料がこんなにかかるものなのか。(40代 女性)

### アドバイス



キャンセル料について、どのように書いてあるのか確認し、納得できなければ再度相談するよう助言しました。インターネットでの契約は、自己責任が強く問われるので広告内容をしっかり読むことが大事です。店舗での予約とは異なり、予約内容や解約料等の契約条件を消費者自身がよく確認しておかないと、思っていたものとは異なる予約内容になっていたり、思いがけなく高額な解約料を請求される場合があるので注意が必要です。



消費生活相談員による  
相談窓口  
町民生活課(役場4階)  
☎286-3128  
月～金曜日  
午前9時～正午  
午後1時～4時